

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ [2](#)、[3](#)、[4](#)、[5](#)、[8](#)

イエス・キリストの受難週、過越の祭り、十字架刑

イエス・キリストの十字架上での死の預言、ひな型

サタンにかかとを損なわれる、女の子孫（単数） 創世記3：15

罪の贖いに要求されるいけにえ 創世記4：4

備えられたいけにえの雄羊 創世記22：13-14

青銅の蛇を仰ぎ見ることによる救い 民数記21：6-9

過越の子羊 出エジプト記12：5-7

キリストの受難週の足取り

ヨハネ12章

“ニサンの月の八日” 過越の祭りの六日前、ベタニヤ到着 ヨハネ12：1

“ニサンの月の九日” 晩餐 ヨハネ12：2

マリヤ、キリストの足にナルドの香油を塗る

“ニサンの月の十日” キリスト、エルサレム入城 ヨハネ12：12-19

→ シュロ聖日



: 15「ろばの子に乗って」:

ダビデの血筋の王として 列王記第一1：32-40、ゼカリヤ書9：9



“ニサンの月の十日～十四日” 過越のいけにえの子羊の用意 出エジプト記12：3-6

過越の祭りの時節

続けて守られた三つの異なった春の「主の例祭」、まとめて「過越の祭り」と呼ばれた

1. 過越の祭り：ニサンの月の十四日 レビ記23：5
2. 種を入れないパンの祭り：ニサンの月の十五日から七日間 レビ記23：6
3. 初穂の祭り：過越の祭りの後の安息日の翌朝 レビ記23：11、：15

過越の祭りのいけにえの子羊

アケダー：神ご自身が備えられた「いけにえの子羊」 創世記22：8

洗礼者ヨハネ、「世の罪を取り除く神の小羊」として、キリストを世に導入 ヨハネ1：29ほか

⇒ 祭りの詳細に亘る特徴、キリストの十字架刑を象徴

ヨハネ13章

“ニサンの月の十四日” 一日早い「過越の食事」 ヨハネ13：1、13～17章

⇒ 「過越の祭りの前」に祝われた、キリストが創始された「主の晩餐」



ヨハネ18章

“ニサンの月の十四日の真夜中” ゲッセマネの園でキリスト逮捕

: 4-9「だれを捜すのか」:

キリスト、再三再四、弟子たちへの完全な守りを配慮 → ヨハネ17：12の成就

: 5-6「...それはわたしです」といわれたとき、彼らはあとずさりし、そして地に倒れた」:

神聖な神の名とキリストご自身の言葉に威圧された敵

聖書

六度の裁判

- ①アンナスの前で ヨハネ18：12-14
- ②カヤパの前で ヨハネ18：19-24
- ③サンヘドリンで マタイ27：1-2
- ④ピラトの前で ヨハネ18：28-38
- ⑤ヘロデの前で ルカ23：6-11
- ⑥再びピラトの前で ヨハネ18：39-19：16

：17 シモン・ペテロ、キリストを否定
：23「イエスは彼に答えられた...なぜ、わたしを打つのか...」：
答の意識も、自己防御反応も全くない「無実の人」の主張

大祭司の衣

- 大祭司カヤパ、衣を裂き、掟に違反 マタイ26：64-65、レビ記21：10
- ：25 ペテロ、キリストを二度目に否定
 - ：27 ペテロ、三度目にキリストを否定
 - ：28 夜の第四番目の見回りの交代時、午前3-6時
祭りの儀式を控えて、ユダヤ人の行動に規制
 - ：32「ご自分がどのような死に方をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就...」：
伝統的なユダヤ人の死刑法は、「石打刑」
ローマにとって、反逆罪は無視されることができなかった
 - ：38「真理とは何ですか」：
神の言葉と行いがひとつになるとき、真理が顕れる

十字架の背理

殺人者の債権、呪い、恥辱、断末魔の苦しみはすべて、義なるキリストに移された
他方で、ナザレ人イエスの自由、無実、安全保障、幸福はすべて、殺人者の分け前となった

ポンテオ・ピラト

ユダヤ人がねたみからキリストを引き渡したことを知っていた
すすんで、キリストを釈放しようとした
キリストに何の欠陥も見いだせない、死に当たる罪は見つけられないと判定、無罪を宣言
「この正しい人の血に責任はない」と、免責を主張
⇒ペテロ、ピラトのキリスト釈放の決意に言及 使徒の働き3：13

ヨハネ19章 十字架刑

- ：1「そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした」：
ピラト、キリストを懲らしめた後、釈放を意図
- ：4「ピラトは、もう一度外に出て来て...」：
すでに言い渡した判決が無視されたため、ピラト、キリストの無罪を再び宣言
- ：11 ピラト、結局は、キリストかこの世かの選択を迫られた

キリストに対する無実の証言

- 1) ユダ自身の告白 マタイ27：4
- 2) ピラトの宣言 ヨハネ18：38ほか
- 3) ピラト、ヘロデがキリストの無実にも同意したことに言及 ルカ23：15
- 4) ピラトの妻の警告 マタイ27：19
- 5) 十字架上で死につつあった盗人の一人 ルカ23：41
- 6) ローマの百人隊長 ルカ23：47
- 7) 百人隊長とキリストの見張りをしていた人々 マタイ27：54

聖書

: 14 「その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった」 (下線付加) :

「種を入れないパンの祭り」の前日、過越のいけにえがほふられる「過越の祭り」の日

キリストの十字架刑の日

1. キリスト、十字架刑による死後甦りまでの期間を「三日三晩」と明言 マタイ12:40
2. キリスト、過越の祭りの六日前、ベタニヤに到着 ヨハネ12:1
3. ギリシャ語原文、過越の祭りと言曜日の朝との間に、**複数の「安息日」**を表示 マタイ28:1

ニサン	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
夕～朝	②	③	④				① ② ③			④ ⑤
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
主の例祭		安息日	①				過越	種なしパン	安息日	初穂

- ①最後の晩餐、ゲッセマネでの祈りと逮捕、不当な裁判
 ②午前9時：十字架につけられ、午後3時：キリストの死、午後6時前：埋葬
 ③過越の祭りの食事 ④キリストの甦り
 ⑤早朝、女たち、空の墓を発見。マグダラのマリヤ、甦りのキリストに出会う
 ①いけにえの子羊の用意 ②ベタニヤ到着 ③晩餐 ④エルサレム入城



「ニサンの月の十四日の午前九時」キリスト処刑 マルコ15:25
 : 17 「どくろの地」 : ヘブル語では「ゴルゴタ」

レビ記の掟によるいけにえの場所

1. 宿営の外の聖い所 レビ記4:12、:21、16:27
2. 祭壇の北側 レビ記1:11、レビ記6:25
3. 門の外 ヘブル人13:11-12

残忍な死刑、十字架刑

1. 衣服、はぎ取られ裸
2. 手首に釘が撃ち込まれる
3. 柱に横木がかけられる
4. 足に釘が撃ち込まれ、頭上に罪状書きが掲げられた
5. 脱水症状、極度なのどの渇き
6. 緊張の相乗効果で、死まで九日ほども続く激痛との闘い、ついには窒息による死
7. 責め苦にかけられるような耐え難い苦しみ

重力と張力の相乗効果

身体の重みと四肢の伸張が引き起こす相乗効果

両手首の釘にかかった身体の重みは中枢神経を侵し、足根骨を引き裂き、激しい呼吸困難、痙攣、肋膜浸潤を起こす。身体中を責めさいなます激痛との闘いは、いかに十字架刑が苛酷、残忍な死刑であったかを物語る。

「イエス・キリストの身体の死」
 アメリカ医学ジャーナル
 1986年3月21日

: 20 「罪状書き...それはヘブル語、ラテン語、ギリシャ語で書いてあった」 :

ラテン語はローマ帝国の公用語、ギリシャ語は共通の国際用語

「イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである」 (下線付加) : 都の外

ピラトの罪状書き

この罪状書きのイニシャルは、頭字語「ヤーウエ」であった!

「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」 ‘ יֵשׁוּעַ הַנְּצָרִי וְמֶלֶךְ הַיְהוּדִים ’

の、各言葉の最初のアルファベットを読むと “הָ הָ” (HWHY) ”、すなわち「ヤーウエ」

*ラテン語/ギリシャ語からヘブル語翻訳時に、“י”を加えることに関しての注釈

ラテン語にはない接続詞“ו”を加えることで、ヘブル語/アラム語訳を『ナザレ人イエス、すなわち、ユダヤ人の王』のように、より拡大した成句に翻訳した可能性は十分考えられる

聖書

: 23-24 くじで分けられた縫い目なしのキリストの着衣 →詩篇22:18の成就

: 28-29 キリストののどの渇きの訴え →詩篇69:21の成就

“ニサンの月の十四日の午後三時” キリストの死

: 31 「主の例祭」の初日の「安息日」は、「大いなる日」と呼ばれた

ここでは、「種を入れないパンの祭り」の初日で、ニサンの月の十五日

: 34 「...兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した...血と水が出て来た」:

血は「信仰義認」、水は「聖め(聖化)」を象徴

死因は、心筋/心臓破裂

: 37 「...聖書の別のところには、『彼らは自分たちが突き刺した方を見る』と言われて…」:

まだ、成就していない預言 ゼカリヤ書12:10

“ニサンの月の十四日の午後六時前” キリストの埋葬

: 40 埋葬の手順を見届けた女たち、「香料」と「香油」をもって安息日明けの日曜日の早朝、墓に向く備えをした

モーセ五書からキリストの墓を解釈したアンドリュー・ボナー

「アリマタヤのヨセフ所有の『岩から切り出された墓』は、石で囲まれた新しい墓、聖い場所で、犯罪者の丘の一部であった。キリストが葬られた墓は金持ちの所有であったが、他の処刑された犯罪者たちの墓と岩で隔てられており、それ自体はゴルゴタの一部であった」と、解説
その三十七年後、英国のゴードン将軍、エルサレム北の「園の墓」を発見

詩篇22篇

処刑された犯罪者を描写 ⇒ 苦難の救い主

: 1-2 「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか…」:

なぜ神は答えられなかったのか

神から引き離された「罪人」と神との和解のため、対処されなければならなかった多くの問題

この世の罪のために死なれ、神への「なだめの供え物」となられた

私たちのために罪となられ、神の義を達成された

私たちのために呪いとなられ、私たちが律法の呪いから救い出された

: 6 「虫けら」: 敵によって恐ろしく損なわれたキリストの身体を象徴 イザヤ書52:14

: 11-16 敵の獐猛な攻撃下で、救いようのない無力状態、十字架刑に処された者を描写

: 17 「私の骨のすべてをさらけ出さなければならない」の意

: 21c-25 キリストの死からの甦りがもたらした恩寵、罪人の「信仰義認」 ローマ人4:24-25

: 26-31 メシヤの時代の「食卓を囲んでの交わり」と、全世界に永久に語り告げられる

神の救い 創世記12:2-3、ローマ人10:19-21

: 31 「主のなされた義」:

キリストの十字架上で三時間がもたらした永遠の福音 ヨハネ19:30、コロサイ人2:13-15

キリストの受難の出来事の推移

1. 十字架を背負い、ゴルゴタに向かわれた
2. クレネ人シモン、十字架を肩代わり
3. 無感覚にする飲み物の提供
4. 二人の盗人の真ん中で、十字架に釘づけされた
5. 「父よ。彼らをお赦してください」との執り成し
6. ユダヤ人のあざけり、ののしり
7. 盗人の一人、キリストを受け入れ、パラダイスへの召天を約束された
8. 母マリヤの世話、ヨハネの手に託された
9. 全地をおおった三時間の暗闇
10. キリストの叫び「わが神、わが神」
11. キリストの叫び「わたしは渇く」
12. キリストの叫び「完了した」
13. キリスト、「父よ。わが霊を御手にゆだねます」と言われ、息を引き取られた